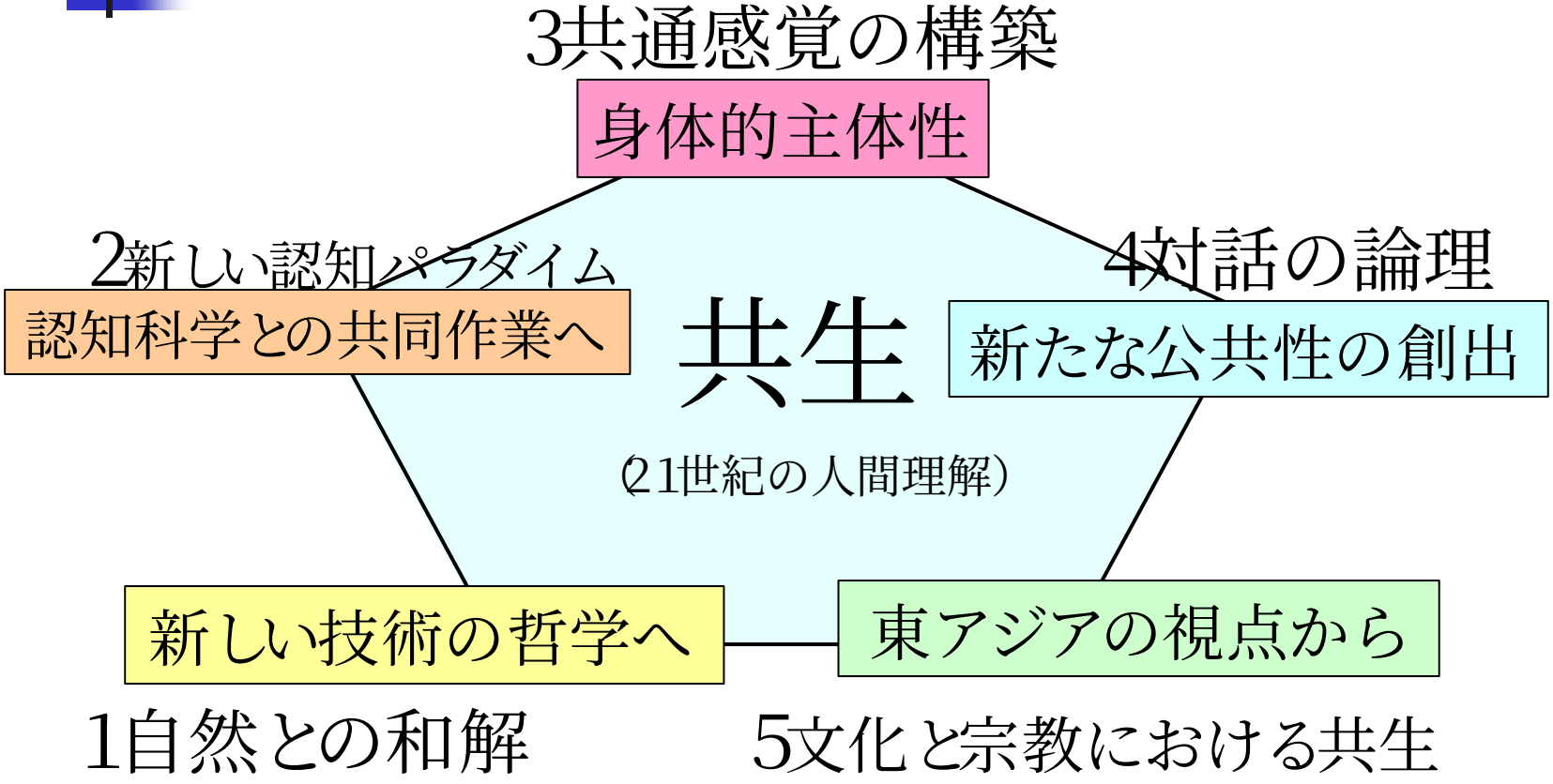
（様式１）

大　　学　　名	東京大学	学　問　分　野	人文科学
専　攻　等　名	大学院総合文化研究科超域文化科学専攻		
拠点のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名称	共生のための国際哲学交流センター		
拠点リーダー氏名	小林康夫	所属部局・職	大学院総合文化研究科教授
プログラムの概要	東京大学大学院総合文化研究科に、超域文化科学専攻を主幹として、２１世紀に求められる新たな哲学研究・教育のための、国際的な拠点「共生のための国際哲学交流センター」を組織する。		
拠点形成の目的・必要性	今日、諸科学の現場でも、現実社会においても、あらゆる領域で新たな哲学的諸問題が浮上し、哲学への強い期待が生じており、総合的な「哲学・倫理学」研究拠点を形成する必要性はますます増している。 （１）わが国の哲学・倫理学研究を世界最高水準に高め、その成果を世界に発信して存在感を高めるためには、国内に国際的な哲学研究教育センターを設立することが不可欠である。（２）わが国や東アジアに固有で顕著な哲学的諸問題を解決するためには、東アジア諸国の哲学研究者とのネットワークを形成・強化し、恒常的な共同研究体制を可能にするセンターの設立が不可欠である。		
研究拠点形成実施計画	以下の５つの研究部門を設定し、各部門ごとに海外の有力研究者を招聘して、国際研究を推進する。 １）自然との和解----科学と技術への哲学的・倫理学的反省 ２）新しい認知パラダイム----人間科学・自然科学と哲学との共同 ３）共通感覚の構築----想像力と身体の理論 ４）対話の論理----公共性と合理性の探究 ５）文化と宗教における共生----アジアの視点から		
教育実施計画	１）客員フェローと事業推進担当者が協力して、若手研究者および博士課程在籍者を対象に、先端的研究を反映したセミナーを運営する。 ２）客員フェローと事業推進担当者は、若手研究者の研究計画策定を指導し、その研究成果を、報告書等によって評価する。 ３）若手研究者の優れた研究成果は、センターが主催する国際研究会議で発表させ、センターが出版する報告書に掲載する。 ４）事業推進担当者と公募された若手研究者は、本センターでの国際共同研究の成果を受けて、最終年度から、社会人、学校教員、一般研究者などを対象とした啓蒙的なセミナーを開始する。		

東京大学 •共生のための国際哲学交流センター (UTCP)